# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報　第225号　2010年7月16日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2010

## 学生のアクティビティを支える
## 教育・研究環境の充実

## CONTENTS

### TOPICS

平成22年度入学式 ・・・・・・・・・・・・・・・ 1
学長告辞

教育・研究環境の充実 ・・・・・・・・・・・・・ 3

学生のアクティビティ・・・・・・・・・・・・・ 5
D-chaと（株）リクルートによる就活講演会
第37回創作舞踊公演を開催
お茶大公認サークル「Ochas」
新宿高島屋 第3回「大学は美味しい!!」フェアに出展
第4回音楽科推薦新人演奏会を開催

教員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
鷹野景子先生（大学院人間文化創成科学研究科）

キャンパス点描・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
公開講演会「共に生きる－池上彰さんに聞いてみよう」
第4回ホームカミングデイ
公開連続講演会「リーダーシップ論　第4回」
「お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞」授与式
大学院オープンキャンパス

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

# 平成22年度入学式
## 学長告辞

ご入学おめでとうございます。

皆様をこの大学にお迎えすることを大変うれしく思います。そして、新入生のご家族の皆様、ご関係の皆様に心からお慶びを申し上げます。

また、本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様に深く感謝申し上げます。

お茶の水女子大学は、今から135年前、明治7年（1875年）に、日本最初の女性のための高等教育機関、東京女子師範学校として国によって設立された最も伝統のある国立の女子大学です。設立当時は、「お茶の水」の地にありましたが、その建物が関東大震災で焼失し、その後、現在の大塚の地に移り、昭和7年（1932年）、今から78年前にこの本館が建てられました。この建物は国の登録有形文化財に指定されておりますが、建物の外壁は「スクラッチタイル」といわれる特殊なタイルで創られていて、当時の建築の特徴を示しています。また、この建物の正面玄関には大理石が敷かれていますが、これはヴェルサイユ宮殿に使われているのと同等の質の高いものとも伝えられています。このことに象徴されるのは、当時、この大学への期待がいかに高く、またその存在意義がいかに重要視されていたかということです。

東京女子師範学校は、女性が高等教育を受け教員として経済的に自立することを、そして、日本の知的水準の向上に寄与することを目的に設立されました。

今日のお茶の水女子大学の使命は、女性が社会的に自立できる力を養成することはもちろんですが、女性の社会的活躍によって、日本社会の活性化を促し、日本の科学と文化をその特性のままに世界に発信し、国際社会に学術的に貢献することにあるといえましょう。

先日、国立大学法人評価のランキングが報道されましたが、お茶の水女子大学は全国86の国立大学の中で第5位と高く評価されました。この評価は、おもに教育、研究、社会貢献、業務運営についての活動の評価ですが、教育、研究については特に高い評価を受けました。ランキングは相対的なものであり、どちらかといえば量的な判断ですし、それに対して、教育や研究の水準や成果はそのようにしては測りえないものであり、また、短期的に判断できるものでないこともまた真実です。しかし今回の高い評価は、お茶の水女子大学の創設以来の教育と研究の実績への評価であるといってよいと思います。高い評価を得たこの教育と研究の基盤は、その能力に秀でた教員と、極めて優秀な学生による「類まれな」教育の実践にあります。

「類まれ」といいますのは、ひとつは、学生の個性と能力を尊重し、少数精鋭の教育を行っていることです。本学ではほとんどの授業が少人数で行われます。したがって、授業中の発言の機会は当然のことながら多くありますし、他人の考え方、自分と異なったものの見方に接する機会も多く、その過程で学問的専門的なコミュニケーションの能力が鍛えられます。

また、学部は三学部ありますが、それぞれの学部の先生方の多くが顔見知りという大学も珍しいといわれています。したがって、おの

ずから三つの学部を隔てる壁は低く、多様な学問に親しむことが可能な教育プログラムも組まれています。つまり、主たる専門を深化させながら、同時に、専門領域を超えて課題を探究する領域横断的な視点を身につけることができるのも、この大学の教育に特徴的な点です。深い専門性は広い視野をもつことによってはじめて可能になる、といえます。

この大学は、学生同士、学生と教員、そして教員相互の分野を超えたコミュニケーションが日常的に行われ、その中で一人ひとりがお互いに切磋琢磨し、専門性を身につけ、人として成長できる環境なのです。

お茶の水女子大学のこうした環境の中で皆様が存分にその持てる能力を磨かれますよう期待しています。

大学での学びがこれまでと大きく異なる点は、正解がないこと、そればかりでなく、問題をも自ら発見し、解決の方法を試み、検証し、新たな理論を創り出すことが求められる、ということです。そこでは、問いを立てる個々人の独創性と新たなものを創り出す創造力が求められます。ですが、そのためには確かな知識を習得しておくことが大切です。そうでないと、主張は独断的になり学問ではなく単なる教説になりかねないからです。

「知は力である」というフランシス・ベーコンの言葉があります。「人の知とその力は同じものである」ともいわれますが、これは対象をよく観察し吟味し知ることによって、法則を見出し、変化を予測する力を得るという学問のあり方を示しているといえるでしょう。私たちは、高い見識をもった人を育てることを使命と考えていますが、高い見識をもつ人とは、学び、観察し、「知」を身につけることによって、問題を発見し、吟味し、判断し、新たな知を創造する「力」を備えた人を意味します。「知」を「力」となすために、皆様はこの大学でそれぞれの関心の赴くまま、多くの「知」を身につけ、勇気をもって自らの可能性を試し、新しい分野を切り拓く「力」を獲得してください。

今日お渡ししている資料の中に、「MIGAKAZUBA」というリーフレットが入っていますが、「みがかずば」とは、

みがかずば　たまもかがみもなにかせん
学びの道も　かくこそありけれ

という校歌に因んだものです。これは日本で最も古い校歌といわれていますが、この校歌にあるように、皆様が学生時代に自らの知を磨き、自信と勇気をもって社会に巣立つための力を学生生活の間に獲得していただきたいという思いをメッセージとしてリーフレットにしたものです。学生生活は社会に向かう一つの大切なプロセスと考えて、失敗を恐れず、勇気をもって自らの可能性を試してみてください。

「お茶大に来て本当に良かった」という学生の声をよく聞きますが、皆様もこの大学で充実した学生生活を過ごし、そして４年後には多くの力を身につけて、この講堂、「徽音堂」から社会へと巣立って行かれることを期待しています。「徽音」とは、美しい音、よい言葉、尊い教えや徳を意味します。70年以上にわたって入学式と卒業式が行われたここは、いわば大学時代の原点となるような空間です。大学生活を、今、この場から始め、かけがえのない時を共に刻み、一人ひとりの歴史と、そして、大学の歴史を豊かに刻んでまいりましょう。

「知は力である」。これからの４年間に得る「知」が学問を拓く「力」となり、皆様の未来へ向けての「力」となることを確信しています。

ご入学をお祝い申し上げ、皆様を心から歓迎いたします。

お茶の水女子大学長
羽入　佐和子

# 平成22年度入学式
## 学長告辞

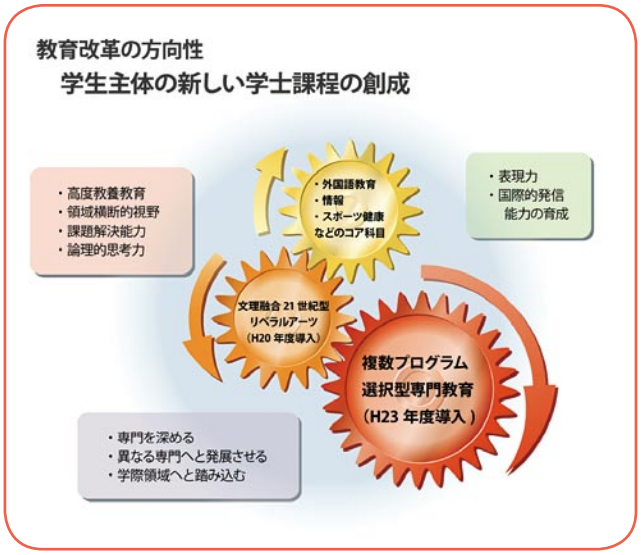
# 教育・研究環境の充実

## お茶の水女子大学では
## 平成２３年度から新しい専門教育課程が始まります

## 「複数プログラム選択履修制度」がスタート

従来の大学の専門教育は、深い知識や技術の獲得を目標としてきました。しかし、現代では高度な専門性に基づく研究力と同時に、その専門的な知性を発揮するための幅広い見識と知識を多様な職業領域で活用できる応用力が求められます。本学では、こうした21世紀の国際社会の進化に対応するために、多様な可能性を発揮できる専門基礎力を育成する「複数プログラム選択履修制度」を平成２３年度よりスタートさせます。

学習者は、専門的な知識や技能の基礎を学ぶ「主プログラム」、専門分野に特化した深い専門性を培う「強化プログラム」、みなさんが専攻した分野とは異なる分野を学習する「副プログラム」、さまざまな分野を融合する最先端の学際型の知識や技能を学ぶ「学際プログラム」を自在に組み合わせることで、自分のニーズに即応した知識・技能を体系的に学ぶことが可能となります。




※詳細につきましては、大学案内、または複数プログラム選択履修制に関わるパンフレットをご覧ください。

## ２１世紀型「文理融合リベラルアーツ教育」を推進

複数プログラム選択履修制度に先立ち、お茶の水女子大学では人文科学、社会科学、自然科学の３つの系列の教員が教育・研究分野において連携していることを活用し、学際的で実践的な力を育むための21世紀型「文理融合リベラルアーツ教育」を実施しています。

「文理融合リベラルアーツ教育」では、文系・理系にまたがる５つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群をつくり、人文・社会・自然の３つの角度から多面的に学びます。また、大学１・２年生の段階で学際的・実践的な力を身につけることによって、専門力を活かした多様な進路が切り拓かれます。

## お茶の水女子大学“みがかずば”奨学金（予約型奨学金）

お茶の水女子大学では、平成２３年度入学者からを対象に新たな奨学金制度を実施します。
予約型奨学金では、入試出願前に申請いただき、奨学金授与についての結果を事前に通知いたします。

～申請資格～

① 日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者

② 当該年度の４月に本学学部１年生に入学する予定で、本学に強く入学を志望する者

③ 成績、人物とも優秀で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者

（①～③のすべてを満たす者）

～給付額～

1年目 30万円、2年目 30万円

～採用者数～

25人

※申請期間や申請方法等の詳細につきましては、7月に配布されます募集要項をご確認下さい。

## 学生寮

お茶の水女子大学には「国際学生宿舎」と「小石川寮」の2つの学生寮がありますが、平成２３年３月には「小石川寮」の隣に「新寮」が完成し、３つの寮でみなさんの学生生活のサポートをしていきます。

### 国際学生宿舎 PICK UP

国際学生宿舎（通称：大山寮）は、東京都板橋区で庶民的な商店街として有名な大山ハッピーロードのすぐ近くにあります。この宿舎は、その名のとおり、日本人学生だけではなく、留学生も数多く入居しており、日常生活において自然と国際交流をすることで、国際的な視野を身につけることもできます。

部屋は個室で、ベッド、エアコン、クローゼット、机、椅子、冷蔵庫などが備え付けられており、また、共用で自炊設備のある補食室、洗濯室、シャワー室もあります（宿舎による食事の提供はありません）。

## 教育・研究環境の充実

# 学生のアクティビティ

## D-chaと（株）リクルートによる就活講演会

６月９日に、学生自主企画プロジェクトD-cha 主催のイベント「女子学生のためのリクナビ編集長によるキャリア講演会」がおこなわれました。

この講演会はD-cha が（株）リクルートと協力し、これから就職活動をおこなう学生に対して、自身のキャリア形成について考える機会を提供するために開催したものです。

就職支援サイト「リクナビ」の編集長、岡崎仁美氏による講演では、内閣府のデータをもとに現在の女性が働く環境についての紹介後、ご自身のキャリア形成やこれからの女性のキャリアについてお話をしていただきました。また、（株）リクルートの天田有美氏からも、「就職への準備・心構え」についてご講演をいただきました。

講演会には就職活動を控えた学部３年生、大学院1年生を中心に150人以上の学生が訪れ、自身の就職活動に活かそうと、メモを取りながら熱心に話を聞いていました。

（記 D-cha）

## 第37回 創作舞踊公演を開催

毎年４月におこなわれる舞踊教育学コースの創作舞踊公演（会場：なかのＺＥＲＯ大ホール）は、今年も７００人程の観客のみなさまにご覧頂きました。

この公演は「卒業公演」と呼ばれ、４年生になった学生たちが舞台制作（会場予約、舞台スタッフとの交渉等）をおこないながら、自分たちの作品を上演する場として捉えられています。そのプログラムの中に、２年生群舞２作品、３年生群舞作品、第２２回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）大学創作コンクール部門で神戸市長賞を受賞した作品「カミーユ・クローデル－ロダンの影－」、さらに卒業生作品が含まれています。卒業生の作品は、２００２年に文化庁在外研修員としてニューヨークに滞在し、帰国後も舞踊活動を広く展開している鹿島聖子さんを迎え、ピアノ演奏（Rico）と身体の動きとのコラボレーションにおいて創作の新しい方向性を見せたものでした。４年生は、それぞれが個性豊かなソロから7, ８人の作品にもチャレンジし、群舞作品では舞踊の本質であるダイナミックなイメージが創出できていたのではないかと思います。

『何も見えない－松井冬子「世界中の子と友達になれる」より－』
作・出演：道町麻佑

『白い部屋』
作・映像：中村あかね　　出演：池ヶ谷奏　中村あかね

『from the ground』４年生群舞

# お茶大公認サークル「Ochas」新宿高島屋 第３回「大学は美味しい！！」フェアに出展

昨年に引き続き、６月２日から８日まで新宿高島屋でおこなわれた「大学は美味しい！！」フェア（主催小学館）に、お茶大公認サークルOchas（オチャス）が出展しました。このフェアは、大学で研究開発した商品を販売するイベントで、今年で３回目になります。今年は３１校の大学が参加しました。

Ochas は、Ochas スイーツチームが開発したどら焼きとマカロン、お茶作りチームがブレンドを考案したお茶２種とお茶と使ったパウンドケーキを販売しました。また、Ochas の食育活動や実績も発信することができました。自分たちが開発した商品をお客様に直接販売することで、食べ物を売る難しさを学ぶと同時に、「おいしいね」といわれた時の嬉しさを感じるいい機会となりました。

フェアを通じて、他の大学の自慢の商品や食に関する様々な活動を知ることができ、勉強になりました。この経験をいかし、さらに食の楽しさ、大切さを社会に伝えていけるようにこれからも努力していきたいと思います。

（記 Ochas）

# 第４回音楽科推薦新人演奏会を開催

第４回音楽科推薦新人演奏会が５月１６日に徽音堂でおこなわれ、２月の卒業・修了試験公開演奏会の成績により推挙された、多田望美（ピアノ・博士前期課程修了）、内藤淳美（声楽・学部卒業）、田辺沙保里（ピアノ・学部卒業）の３名が更なる研鑽の成果を披露しました。

本年度は音楽科卒業生の同窓会も同日に開催されたため、多くのＯＧが鑑賞に訪れました。

# 教員紹介

ご自身の研究や教育観を語っていただく「教員紹介」。
今回は、大学院人間文化創成科学研究科自然・応用科学系の鷹野景子先生にお話を伺います。

## 興味を持ったものに熱中する時間を大切にしてほしい

### 鷹野先生がご専門とされている研究内容について教えてください。

私の専門は「計算化学」という分野です。物質を構成する原子や分子は原子核と電子から成り立っており、そのため物質の性質は電子の振る舞いによって決まります。化学反応というのは物質を構成する原子の結合の組み換えですが、化学反応が起こるかどうか、またその反応機構は電子について調べることで解明できます。

私は量子力学に基づいたシミュレーション計算によって、化学反応の機構や物質の性質、分子間の相互作用を解明することに興味をもって研究をおこなっています。

### 計算機を使った化学実験をおこなっているようなものですか？

その側面もありますが、もっと大事なことがあります。実験では物質を反応させ、どんな物質または状態になったのか、を示すことができますが、反応の途中のエネルギーの高い状態（遷移状態）については知ることができません。計算化学には、このような実験では明らかにできない反応経路、反応のメカニズムを解明するという、より大事な研究目的があります。

### シミュレーション計算をおこなう対象としてはどんな物質があるのでしょう？

対象としては、触媒や機能性材料として重要な有機金属化合物があります。また、生体内でのシグナル伝達などを担うことが知られている糖鎖も対象です。これらの物質の構造、性質、そして相互作用、特に糖鎖とタンパク質との相互作用について解析をおこなっています。

### お茶大で教鞭をとるようになるまでの経緯を含めた、鷹野先生のキャリアパスについて教えていただけますか？

私は県立高校を卒業後にお茶大に入学し、化学を専攻して大学院修士課程に進学しました。修士課程を終える頃は、民間企業へ就職が厳しい時期でした。今しかできないことにチャレンジしようと青年海外協力隊の採用試験に臨もうかという時、縁あって所属していた研究室に助手として採用していただき、本学で研究を続けることができました。

その後、結婚し、第一子の出産の後に博士号を取得しました。第二子出産後には文部省（当時）在外研究員として 10 ヶ月間、米国のノースダコタ州立大学、アイオワ州立大学で研究をおこない、帰国後、現在までお茶大で研究と教育を続けています。

近年は研究・教育に加えて本学が日本学術振興会の支援を受けておこなっている、理系学生の海外派遣プロジェクト「若手インターナショナル・トレーニング・プログラム（若手 ITP)」の責任者や、女性リーダーの育成を推進するための、「リーダーシップ養成教育研究センター」のセンター長としての仕事にも取り組んでいます。多忙ながらも、学生さんの成長を目のあたりにできる幸せにも恵まれています。

### 現在は学生の海外派遣プロジェクト（若手 ITP）や、リーダーシップ養成教育研究センターなど、次世代の育成にも取り組んでおられるとのことですが、少し詳しく教えていただけますか？

若手 ITP というのは、本学の大学院に所属し、物理学、化学、情報科学、数学を専攻する大学院生を対象とした海外派遣プログラムです。「研修留学」と「研究留学」の二種類があり、いずれも滞在費、航空運賃を本学が負担します。事前語学研修、安

全管理研修も充実しています。派遣先は研修留学の場合はドイツのバーギシェ・ブッパタール大学、研究留学の場合は本学と交流のあるヨーロッパの大学、研究機関が対象となっています。研修留学では秋から冬にかけて４ヶ月間、滞在先の大学院で理系の専門課程の授業を受けて単位を取得します。その単位は本学大学院の単位として認められます。研究留学では、先方の研究機関に２ヶ月以上滞在し、現地の研究者から研究指導を受けることができます。

**鷹野先生がこのプログラムをリーダーとして立ち上げようと思ったのは、ご自身の留学経験もきっかけになっていますか？**

はい。やはり自分自身で海外での研究生活を体験してみて、非常によい刺激を受けたということがあります。私の場合には第二子の出産後に留学に出たのですが、その際に思ったのはこのような海外での研究・留学生活を体験するのは若ければ若いほどよいだろう、ということです。それが本プログラムを立ち上げたきっかけの一つです。また女性のライフサイクルを考慮すると、大学院在学中という早期留学の意義は特に大きいと考えています。

**若手 ITP ではどんな成果が得られていますか？**

本プログラムを体験した学生達は海外という、本学とはまったく異なる環境で、知的にも文化的にも大変よい刺激を受けています。なかには一度本プログラムで研修留学を経験した後、次年度にもう一度応募して現在もヨーロッパで研究留学を続けている人もいます。また別の人は元々留学志向の強い人でしたが、修士1年生のときに本プログラムの研修留学に参加し、より一層留学への思いを強くしたようで、修士課程修了後、本学の博士課程に進学すると共に留学先の大学の博士課程へも進学し、ジョイント･ディグリーといって、ヨーロッパの大学とお茶大の２カ所の大学で博士号を取得することを目指して頑張っている人もいます。

**とても刺激的な、よいプログラムのようですが、理系を専攻する大学院生は今後もこのプログラムに参加するチャンスがあるのですか？**

残念ながら日本学術振興会の支援を受けての本プログラムは平成２４年度をもって終了します。しかし、多少の規模の変更はあるとしても、このような海外留学のチャンスを継続的に学生のみなさんに提供していきたいと考えています。

**ではリーダーシップ養成についての取り組みはいかがでしょう？**

本学で立ち上げた「リーダーシップ養成教育研究センター」のセンター長をつとめています。このセンターでは、リーダーシップ教育とキャリア支援を柱にして学生への教育と支援をおこないます。また女性教員に対しても女性研究者支援事業をおこなっています。

本学の校歌にちなんだ「MIGAKAZUBA（みがかずば）プロジェクト」と銘打った、リーダー育成プロジェクトを展開しています。たとえば学生への教育面では、リーダーシップ養成を目指した「お茶の水女子大学論」という授業を提供しています。ここでは通常の講義のみならず、リーダーとしてのロールモデルとなる分野の方々を講師としてお招きし、講演会をおこなっています。例えば学識者、ビジネスマン、起業家、スポーツ選手など、本学の卒業生に限らず多様な方にご講演いただいています。また昨年度はグループワークとして「お茶大をちょっとよくする企画」のグループワークや、大手商社の方にご協力いただいてコンビニの新商品開発の提案プロジェクトなどを実施しました。

女性研究者支援事業としては、育児中の学生、教職員へのサポートとしてキャンパス内に保育施設「いずみナーサリー」を設置し、日中お子さんを預けて授業や研究に集中できるような環境を提供しています。特に学生に対しては、施設利用料の半額を大学が負担し、経済的にも支援しています。

その他、本センターでは、まだまだ話し足りない位、多くの事業を展開しています。これらのリーダー養成プロジェクトや支援事業を通じて、本学の理念である、「学ぶことを希望する全ての女性の夢をかなえる」一助になりたいと思います。

**研究、教育、そして支援事業と、色々な側面を通して学生と接する機会があるかと思いますが、お茶大生に対する印象はどうですか？**

お茶大生は一見おとなしそうに見られがちですが、実は活発で勉強やサークル、社会活動など、いろいろな事にどん欲にチャレンジする人が意外に多いということでしょうか。

**最後に、この記事の読者の多数を占めるであろう、お茶大生をはじめとする若い世代の方々へのメッセージをお願いいたします。**

興味を持ったものに損得なく熱中する時間を大切にして欲しいと思います。将来何につながるかわかりませんが、夢中になって過ごして得たものが、かならずあなたの力になってくれると思います。

**本日はありがとうございました。**

聞き手：曺　基哲
（大学院人間文化創成科学研究科
自然・応用科学系）

# キャンパス点描

## 公開講演会「共に生きる―池上彰さんに聞いてみよう」を開催

６月１６日、ジャーナリストの池上彰氏による公開講演会、「共に生きる－池上彰さんに聞いてみよう」を開催いたしました。

第一部は「共に生きるとは」というテーマのもと、池上氏に日本の開発援助と国際社会のなかでの援助問題についてご講演をいただき、第二部では、本学をはじめ、奈良女子大学、日本女子大学、甲南女子大学の学生たちから、日々の研究や生活のなかで疑問に思っていることを池上氏に質問し、ご意見などを伺いました。

この公開講演会には学生のほか、一般の方々も多くご参加いただきましたが、池上氏のお話を受け、各参加者にとって、現代社会において「共に生きる」とはどういうことなのかということを改めて考えることができる場となりました。

## 第４回ホームカミングデイを開催

第４回目となるホームカミングデイが、５月２９日、本学において開催されました。

今年度は、在学生がどのように学び、生活をしているのかを卒業生の方々にご覧いただくとともに、卒業生の方々がどのように大学生活を送られ、今日までの日々をどのように過ごされたかを在学生に紹介される催しを数多く企画しました。

在学生による舞踊や徽音堂および附属図書館でのピアノ演奏、大学院生による研究発表会、裏千家茶道部による呈茶、徽音祭実行委員会による徽音祭グッズの販売のほかにも、卒業生をパネラーとしてお招きしてのシンポジウムや講演会など、お茶の水女子大学の歴史と伝統が生き生きと交わる１日となりました。

## 公開連続講演会「リーダーシップ論　第４回」を開催

本学が取り組む女性リーダー育成プログラムの一環として、第４回となる公開連続講演会「リーダーシップ論」を６月２日に開催いたしました。

講師として小倉和夫氏（国際交流基金理事長）をお招きし、「国際性と日本らしさ」と題して、「国際人」とはどのようなものなのか、また、国際社会を知ることで初めて気がつく日本らしさとはなど、学生たちに対してさまざまな視座をもたらすお話をいただきました。

当日は、１年生を中心に３００名を超える学生の参加がありましたが、普段はなかなか聞くことができない小倉氏の講演とあって、学生たちも熱心に聞き入っていました。

## 「お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞」授与式を開催

お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞の授与式が、５月１０日、大学本館にておこなわれました。

お茶の水女子大学桜蔭会研究奨励賞は、社団法人桜蔭会の助成により、本学の学部から大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程に進学した学生のなかから特に優秀、かつ将来が嘱望されると認められる学生に贈られるものです。今年度は５名が受賞しました。

授賞式では、三浦良子桜蔭会会長にもご臨席を賜り、賞状と奨励賞を手渡された学生にお祝いと励ましの言葉が述べられました。

## 大学院オープンキャンパスを開催

４月２４日、大学院オープンキャンパス（受験生説明会）が開催されました。

今年度は約３７０名の参加者があり、徽音堂での全体説明会では羽入佐和子学長および耳塚寛明教育機構長、石口彰大学院人間文化創成科学研究科長から本学大学院の特色と教育研究活動状況について説明がおこなわれました。

全体説明会終了後には、各専攻・コース別に分かれての説明会が開催されましたが、専任教員や大学院生による研究内容の説明のほか、修了後の進路、大学院入試などに関する相談会もおこなわれ、大学院への進学を考えている参加者から数多くの質問が寄せられました。

## キャンパス点描

平成２２年度入学式

お茶の水女子大学学報　第 225 号
▽発行日：2010 年 7 月 16 日
▽発　行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1（〒 112-8610）

ご意見・ご感想はこちらまで
学術・情報機構広報チーム
電話　03-5978-5105
FAX　03-5978-5545
E-mail：info@cc.ocha.ac.jp
URL　：http://www.ocha.ac.jp/

Copyright (C) 2010 Ochanomizu University. All Rights Reserved